

留学報告書

磯野 文香

2017年7月

PhD 課程の 2 年目後半にあたる 2016 年 7 月から 12 月までの状況を報告させていただきます。

1 研究

2 年目後期は授業を取らず、研究に専念していました。今学期は実験装置/設備の設計、建設に全ての時間をかけています。私は大学キャンパス内ではなく、大学の横に隣接している国立研究所で研究をしています。そのため、一つ一つのプロジェクトの規模が大きく、私の研究プロジェクトも例外ではありません。装置完成まであと半年はかかりそうで、キャンパス内の研究室に所属する学生がどんどん結果を出す中で、焦らず辛抱強く研究に取り掛かっていかなければと最近ばかりで研究に取り組んでいます。

大きなプロジェクトの割に携わっている研究者の数は少なく、毎日事務処理で忙しいプロジェクトリーダーと、ポスドク、そして私の 3 人でプロジェクトを回しています。そのため学ぶことが多く、幅広い分野で研究者として必要なスキルを身につけています。100TW (テラワット)、10 の 14 乗ワットのレーザー制作にほぼ一人で取り組んでいる傍ら、X 線放射に関する理論研究を平行して行いシミュレーションを走らせたり、3D CAD でビームラインのデザインもしています。

私が所属する研究室は毎日朝 8:30 のミーティングから始まり、皆メリハリよく研究を行っているので、とても気に入っています。今学期からフルタイムで働くようになったので、研究所の他のメンバーと毎日ランチを一緒に食べるようになり、皆との距離もぐっと近づきました。ポスの家に招待されて、同じグループの皆でカードゲームで遊ぶこともありました。

2 研究その他

今学期、研究所では 3 度も緊急避難をしました。一度目は地震で、アメリカに来て初めて体験しました。震度 3 程度でしたが、二回連続して単パルスの縦揺れが発生し、職員全員が建物から避難しました。2 度目と 3 度目の避難は偶然にも同じ日に発生し、大変混乱した 1 日となりました。まず午前中に、警備上の問題で建物内に緊急退避するように放送が入り、皆建物内に 1 時間ほど拘束されることとなりました。銃乱射でも発生したのかと心配しましたが、どうやら不審者がフェンスを越えて侵入しようとしたそうです。それから 1 時間後、研究所のすぐ上で山火が発生し、10

エーカー (東京ドーム約 1 個分) の面積が焼けているという情報が入りました。3 分後に研究所の全電源をシャットダウンするという緊急放送が入り、皆慌てて実験作業を止め、惜しみながら実験装置やパソコンの電源をすべて落とし、研究所から避難しました。4 千人の職員のほぼみんなが車で避難することになり、研究所内外は大渋滞で大きな混乱を招きました。毎年研究所では山火事対策のためにヤギを放牧しているのですが、今年はヤギのお仕事が間に合わなかったようです。

3 生活

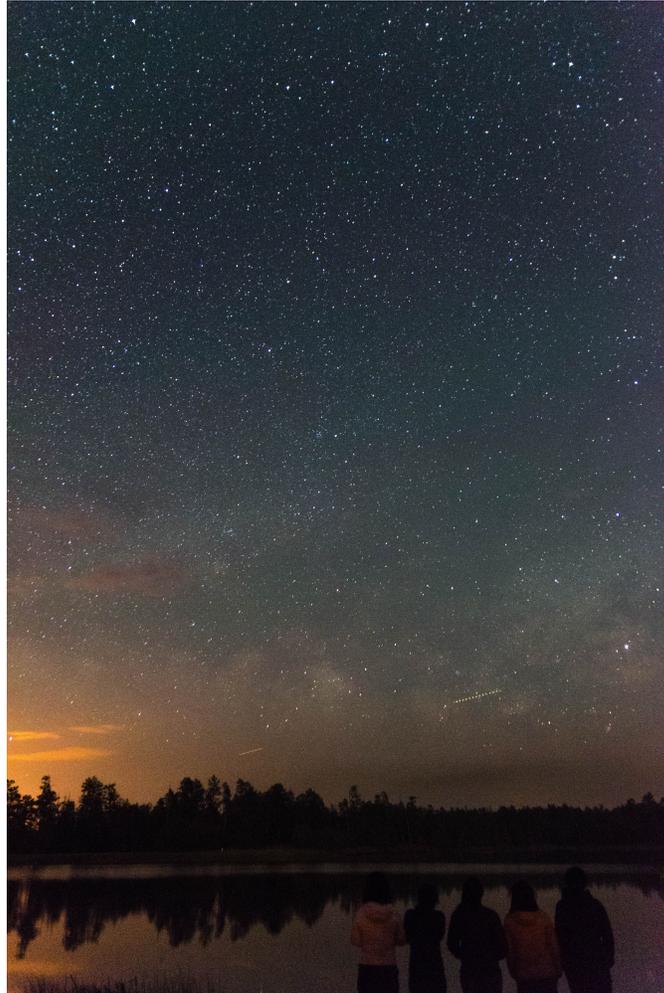
6 月に、2 年間住んでいた家からアパートに引っ越しました。以前住んでいる家はゴールデンゲートブリッジ、海、島、山が見渡せる素敵な家でしたが、10 人で平和に住むことは難しく、いざこざが増えるようになったので思い切って引っ越すことにしました。今は同じく PhD 課程に在籍している学生 2 人と一緒に 3 ベッドルームのアパートで平和に暮らしています。パークレーのアパート事情はひどく、毎月 10 万円以上払っても自分専用のバスルームを持つことは不可能です。10 万円以下だと、決まって相当ボロく狭い部屋か、居間を借りることしかできません。サンフランシスコでは 1 ベッドルームのアパートは 30 ~ 40 万円し、東京とは比べ物にならないほど地価が上がっています。今回は友達を通してアパートを見つけられましたが、今回の部屋探しでベイエリアでの居住の事情を改めて知るきっかけとなりました。

4 最後に

今学期は研究に専念し、比較的余裕を持って日々暮らすことができました。次学期は授業を 1 つとりながら、実験装置を完成させてどんどん実験を進めていければと思います。



研究所では山火事を防ぐために毎年ヤギを放牧しています



連休を使って、グランドキャニオンなど国立公園を幾つかまわり、キャンプをしました